

第2回町立芦屋中央病院事業検討委員会

議事録（要旨）

1. 日時：平成24年1月19日(木) 14時00～16時00
2. 場所：芦屋町役場 44会議室
3. 出席者：委員(八尾・信友・松田・石松・尾辻・柿木・佐瀬・貞安・鶴原・豊長・中西・藤崎・宮崎)
事務局(町立芦屋中央病院：櫻井・森田・三友・杉野・西・浮田・中野)
オブザーバー(芦屋町：吉永・大塚・塩田)
委員会支援業者(㈱日本経営エスディサポート：藤澤・池田・小林)

4. 議事概要

下記のとおり町立芦屋中央病院検討委員会(以下「委員会」)を進行した。

(1) 開会

(2) 議事

①住民アンケートの集計結果について

②施設整備方針の検討について

○大規模改修

○現地建替え

○移転建替え

③その他の事項

(3) 閉会

(1) 開会

(2) 議事

①住民アンケートの集計結果について

アンケートの集計結果について説明した後、議論となった。

以下、該当事項に関する発言

(委員長)

アンケート結果について「問20 町立芦屋中央病院は必要でしょうか」という設問について「絶対に必要である」「どちらかといえば必要である」の回答が90%を超えていたが、アンケートの対象となった母数はどのくらいか。

(事務局)

芦屋町の20歳以上の住民は約12,000人で、今回は約2割にあたる2,400人にアンケートを発送し、そのうち約半数の回答があった。

(委員長)

町立芦屋中央病院が必要であるという解釈でよろしいと思うが、今後の議論は、芦屋町に町立芦屋中央病院が必要であるという前提で進めていくが、ご賛同いただけるか。

(委員一同)

異議なし

②施設整備方針の検討について

それぞれの施設整備方針について議論が行われた。

○施設整備方針の1つ目である大規模改修工事については、耐震工事の約2億円を含んだ改修工事費用の概算が約15億円である等の説明をした後、議論となった。

以下、該当事項に関する発言

(委員長)

大規模改修はコストがかかると理解できたと思う。加えて耐震工事は影響が大きいと思われるが、事務局から付け加えることはないか。

(事務局)

現在当院は町の耐震基準は満たしている。それで大規模改修する方向で計画していたが、昨年の3月11日の震災のこともあり、病院は災害の拠点になるということで、耐震基準を引き上げざるを得ないのは時代の要請だと思っている。以前計画していた事と、そこが大きく変わったと認識していただけだと、分かりやすいかと思う。

さらに、耐震工事を実施するとなると大きな騒音と振動が発生し、6ヶ月から9ヶ月くらい病棟を閉鎖して行わなければならず、患者の受入れが出来なくなり病院の収益自体が減るということもあるが、全く入院患者を受け入れられないということになり、私たち職員としても胸が痛むところである。その点を十分に検討していただきたい。

(委員)

約6ヶ月間入院できないとなると、患者は他の病院に入院してしまい、帰ってくることが見込めないのでないか。

(委員長)

予測された数字よりも実際はもっと大きな損失が発生してしまうということでおよろしいか。

(事務局)

そのような理解である。

(委員)

町立病院と連携している介護施設などは、入院患者を受け入れていただいている関係上、受入れがなくなることは非常に大変になる。別の病院に切り替えるとなると利用者も大変になるため、非常に大きな問題である。

(委員長)

改修工事となると、病院も大変な状況となるが、それだけでなく周辺の施設にも試算された数字以上の大きな影響が出てしまうという理解でよいか。では、残りの案を聞いて、また検討する。

○次に2つ目の施設整備方針である現地建替えに関し説明をした後、議論となった。

以下、該当事項に関する発言

(委員長)

現在の敷地内で建替えるとなると、狭い領域しかないと建物の高さが高くなり、そうなると日影の規制が発生する可能性があり、現地建替えが困難であるという解釈でよろしいと思う

が、他に意見はないか。

(委員)

病院の横に墓があり、墓の目の前に病院を建てるということはどうなつか。

(委員)

患者は年齢を重ねれば重ねるほど、考え方が消極的になり、次の行き先が見えるというのは良くないと思う。

(委員)

私は高齢者と接することが多くあるが、手術の後に横たわって墓が見えると行き先はあそこだなと思って、あれは絶対によくないという話をよく聞く。

(委員長)

別のご意見がなければ、この現地建替えの方針に関する議論はしないということでよろしいか。委員の方々のお話を聞きしていると、費用の問題以前に現地建替えは望ましくないと思うがいかがか。

(委員一同)

異議なし

○続いて 3 つ目の施設整備方針である移転建替えに関し、工事費用の概算が 30 億～35 億円である等の説明をした後、議論となった。

以下、該当事項に関する発言

(委員長)

仮にこの移転建替えをするとなると、どこに移転をするのか。候補地がどのくらいあって、どこが可能かの検討を先にした方がよいのではないか。

(事務局)

今の話については、適切な町有地があるかどうかだと思うが。

(委員長)

どのくらいの敷地面積の候補地が、どのあたりにあるのかを先に見たほうが分かりやすいので、説明をお願いする。

(オブザーバー)

現在の病院の敷地面積は約 2 万m²ある。町有地で一団として 2 万m²以上ある土地でかつ未利用地は 2 箇所しかない。1 つ目は大君ごみ処理施設の跡地で約 20 万m²あり、町としての利用はまだ決まってない。2 つ目は総合体育館の横の総合運動公園内造成地であるが、特定地域開発就労事業に該当する地域でこれまで造成工事をおこなってきた。ここでの有効面積は確認できていないが、造成面積は約 7 万m²ある。この 2 つの土地は、若松区の青葉台地区に隣接している。

(委員長)

この 2 箇所であれば、芦屋町が提供してくれるということだが、1 つは過去にごみ処理をしていた土地なのか。

(オブザーバー)

ここは大部分がゴミの焼却施設と最終処分場であったところで、土地履歴としてはあまりよろしくない。周辺住民の安全性も考慮されて、平成元年に閉鎖された。総合運動公園内造成地は、特定地域開発就労事業の対象地域となっており、厚生労働省から助成金が繰り入れられて

いるためにその点の課題は整理する必要がある。

(委員)

総合運動公園内造成地のほうが開発には便利、津波などの心配もない。

(オブザーバー)

土地の高さは総合体育館の屋根の高さくらいで、地盤も岩となっている。

(委員)

この 2 箇所以外に町有地の候補地はないのか。

(オブザーバー)

未利用地で 2 万m²以上の土地はない。競艇場近傍には点在して町有地があるが、まとまった町有地ではない。

(委員)

町営住宅があるが、そこは取り壊して利用することはできないのか。

(オブザーバー)

町営住宅に関しては、今年度から 10 年間の長寿命化計画を策定することになっている。取り壊し予定地域として福岡銀行の前あたりがあるが、ここは 5 千m²くらいしかない。その他には緑ヶ丘団地があるが耐用年数に達していないため、現在取り壊す予定はない。しかも第 1 種低層住居専用地域という地域で、用途規制があるため建物を建てにくい地域となっているということで、町営住宅跡地を利用するることは非常に難しい。

(委員)

町営住宅跡地であれば交通の便がいいと思ったのだが、残念だ。

(委員)

今の話だと、総合運動公園内造成地がよいと思うが、アンケートから救急医療を望む回答が多くあるので、何分以内に救急が駆けつけられる住民が全体の何割いるのか、逆に何割の住民がそこから外れてしまうのか考える必要があると思う。

(委員)

実際、この地域の救急のほとんどは福岡新水巻病院に行っている。

(事務局)

総合運動公園内造成地の土地は、現在の幸町からそれほど離れておらず、幹線道路に面している。仮に移転しても現在の病院と救急搬送時間はそれほど変わらないと思う。

(委員)

芦屋橋を渡る渡らないで住民感情もあると思うので、考慮する必要があるのではないか。芦屋地区の住民は、芦屋橋を渡るよりは福岡新水巻病院や医師会立おんが病院に行ったほうが早いと思うかもしれない。

(委員)

それは山鹿地区も同様で、逆に言うと今は山鹿地区が芦屋橋を渡っている。実際には、芦屋地区には建てられる土地がないので仕方ないと思う。

(委員)

芦屋の住民からすれば、総合運動公園内造成地と、福岡新水巻病院とおんが病院を比較すると、時間的距離は総合運動公園内造成地が一番近い。また、健康づくりと一体として考えれば、体育館を有効活用し健康福祉ゾーンのような形にするのも良いのではないかと思う。

あとは、病院跡を何に使うかだと思う。有床診療所として活用できれば、利便性はそれほど落ちないと思う。

(事務局)

医師の確保ができれば可能だが、現実には難しいと思う。

(委員長)

利便性については公共交通機関が重要だと思うがいかがか。

(オブザーバー)

アクセスの問題については、北九州市営バスが通っているし、急行バスのバス停が近くにある。

(委員)

タウンバスの乗り入れはしてもらえるのか。

(委員)

北九州市営バスがあるから無理ではないか。

(委員)

このような移転問題については、アクセスの問題も非常に重要である。経済効率的な判断だけでは一部の住民が反対するケースがあるため、しっかりと説明をしていく必要がある。例えば小学校区毎に説明会をするなどの努力をしなければいけない。

(委員長)

今回だけで決定するものでもないので、この委員会では移転候補地を前提として、それを踏まえて費用面も考慮して検討していかなければならない。あとは芦屋町の住民に説明努力していただくということで、次に移ってよろしいか。

(委員一同)

異議なし

○施設整備方針ごとのメリット、デメリット等に関する説明をした後、議論となった。

以下、該当事項に関する発言

(委員長)

今の説明を踏まえると、現地建替えに関して今後議論は不要と思うがいかがか。

(委員一同)

異議なし

(委員長)

そうすると大規模改修か移転建替えのいずれかが望ましいかの議論をお願いしたい。

(委員)

アンケートで、「絶対に必要である」「どちらかといえば必要である」と答えた人が過半数だが、患者数のピークが10年後であると仮定すれば、それまでは改修で、その後は病院がなくなてもよいというのか、あるいは一般会計からの繰り入れが高額になっても町立病院が必要であるのか。町立病院が限定的な存続で良いのか、永続的に存続することを望んでいるのかを踏まえてシミュレーションを作成する必要があると思う。

(委員)

シミュレーションの中で今後の町立病院の診療科が現状のままなのか、減るのか、増えるの

かということも、町民として非常に関心があるところなので、そのあたりも分かるようであれば教えて欲しい。

(委員長)

一旦、大規模改修をするか移転建替えをするかという結論は、先ほど指摘があった資料を準備して検討したいと思う。先ほどの移転建替えの30億円～35億円という概算費用は、現状の規模の場合か。

(事務局)

建物のみで、附帯施設に関しては考慮していない。移転建替えを想定した場合、基本計画を踏まえて基本設計に入していく必要がある。また、診療科の問題や経営形態の検討については、来年度に別途委員会ができると認識いただければと思う。

次回委員会では現有の規模、現有の診療科という前提で成り立つかどうかのシミュレーションであれば作れると思う。

(委員長)

老朽施設に関して改修では難しく、移転建替えをした方がよいのではないかという結論を出すだけでよいか。

(事務局)

それだけではなく、移転建替えとなると大幅な資金が必要となるので、その資金をどのように使うべきかという議論をしていただきたい。それには病院のあり方をどのようにするか、経営的に成り立つかも非常に重要な問題となるので議論していただいて、ただし病院の将来的な構想等は別の委員会での検討をさせていただきたいと思う。

(委員長)

今回は施設整備の方針に関しては、大規模改修、現地建替え、移転建替えの3つについて検討し、そのうち現地建替えは困難であるため、大規模改修か移転建替えのどちらかというところまでは結論が出た。今後は、どちらが良いのかについて検討し結論を出すことで宜しいか。

(委員一同)

異議なし

(委員長)

その他に意見や確認事項はないか。

(委員)

今回の件について、国の補助金や助成金などはないのか。

(事務局)

活用できる可能性があるのは過疎債である。探してみたが補助金はなかった。

(委員)

仮に、15億円かけて大規模改修を行った場合に病院が10年持つのであれば、その時に必要度の高い診療科のみに縮小し、建替えを行ってはいかがか、診療科を縮小すれば建設費用も15億円ぐらいに抑えられるのではないか。今回大規模改修を行ったら病院本体が何年程度維持できるのか。

(事務局)

大規模改修したからといって建物全てがリニューアルされるわけではない。建物自体の耐用

年数は既に超えているので、今後いかなる故障が生じるか正確に把握できない。十数年先に病院が保てるかどうかの判断は難しいと考える。

(委員)

税法上の年数を超えただけではないのか。建築学的に耐用年数を超えていいるのか。

(事務局)

ご指摘のように税法上の耐用年数と建築上の耐用年数があることは承知している。ただし、建築上の問題は切迫している。例えば、エレベーターについてはメーカーの保障期間 20 年に対して 1.5 倍超過しているし、空調設備の熱源そのものも老朽化している状況である。緊急性の高いものについては平成 22 年から改修をしている。機器の交換をした物は当然保つと思うが、今後大規模改修となても全てをリニューアルすることは不可能である。

資料に記載している改修費用概算は現在判明している箇所に対してのものであって、未だ分かっていない箇所もある。いつまで建物が残るのかについては何とも言いうがない。

(委員)

10 年後に必要度の高い診療科だけで運営したらどうなのかと質問が出たらどうするかと質問している。他の診療施設と地域の中で連携を取っていければいいのではないか、救急であれば新水巻病院やおんが病院があれば良いではないかと質問が出たらどうするか。このような想定も踏まえて検討していくことが必要なため、質問していることを理解してほしい。

(事務局)

現状で長期的な展望としては、現状の一般病床と療養病床を有するケアミックス型として運営していくことを想定している。診療科の再編についてはまた別の委員会で検討されるべきだと思っている。

(委員)

改修で約 15 億円かかり、それ以外に毎年小規模の改修がかかるとした場合、10 年先まででかなりの投資が見込まれる。しかも施設は年々悪くなっていく。10 年先に病院事業をやめるのであればそれは評価できることだと思うが、継続するのだから、改修で 10 年先まで維持することは疑問を感じる。

(委員)

この議論が分かりにくいのは時系列のデータが不足していることである。例えば、縦軸に建物を維持する、あるいは建替える費用、横軸に時間を取ったグラフがあれば、どのくらいの総費用がかかるか分かりやすいと思う。これまでかかった費用と、今後予測される費用が分かるようになっていると良いと思う。多分、改修は難しいと思うのだが、移転建替えについては利便性が問題になってくると思うので、住民の方の利便性を損なわないようなプラン付きで検討することが必要だと思う。

(委員長)

支援業者に尋ねるが、過去に他の施設でそういったグラフを使用したことがあるか。

(支援業者)

今後発生しうる費用はある程度見込むことができようかと思うので、先ほどの資料作成はできると思う。

(委員)

ゼネコンがそのようなライフスパンに渡った初期投資とメンテナンス費用を計算するプログ

ラムを持っている。尋ねてみてはいかがか。

(委員長)

簡易的でも結構なので、目が通せる資料があれば議論がより合理的になると思う。

(事務局)

次回の委員会で準備する。

③その他の事項として次のような意見があった。

(委員)

今回のアンケート集計は、町民全体のものだが、芦屋地区と山鹿地区とに分けて集計をして、意向が異なるのかどうかを見る必要がある。

(事務局)

このアンケート集計に関しては、単純集計となっている。今後いくつかの層別解析を行う予定である。ただし、委員会での討議と関係ない項目も含まれているので、それらについては当院の経営の参考にさせていただこうと考えている。

(3) 閉会

次回は議論にあがった資料を揃えて、大規模改修と新築移転のどちらが望ましいかを議論することとし、第3回の委員会を2月16日（木）に決め、閉会した。

署名人 雇鳥原俊之

署名人 中西雅代